

放課後子ども教室だより

令和2年度 冬号



合言葉 : 決まりを守り 元気にあいさつ

長く続いた小春日和。そして突然の極寒、凜と張り詰めた冷たい空気にむしろ軽井沢らしさを実感しホッとしたような気持ちも抱きました。地域によっては大変な大雪で生活に支障をもたらされてしまっていますが、軽井沢の子どもたちにとってはこれまで雪遊びのできない寂しい冬だったかもしれません。1月25日の20cm程の積雪ではいつもより断然多くの子どもたちが、外に出て久しぶりの雪遊びに興じていました。

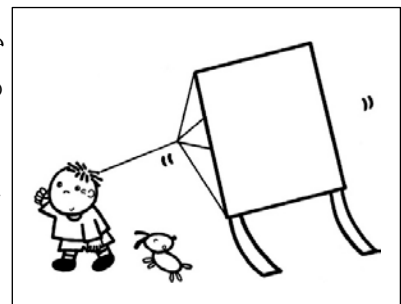
また新型コロナウイルスの感染警戒レベルが一度は5に引き上げられ、発出された「特別警報Ⅱ」も、1月25日解除されました。しかし子どもたちの受け入れには今まで同様の配慮が要されています。ウイルスや寒さを、ものともしない子どもたちの元気な声が響き、つかの間職員もホッとさせてもらってもいますが、この子たちを如何に守るのか職員は緊張の連続です。

西地区児童館・・・恒例の「まゆ玉づくり」中止に・・・

毎年全学年で繭玉づくりの体験をしています。感染防止のため今年は中止せざるを得なくなりました。そこで、せめて遠近神社で行われるどんど焼きに持って行ってもらえればとの思いで、実演の見学をしてもらいました。借宿地区の皆さんに用意していただいた柳の枝に3色の繭玉を刺し児童館にも飾りました。密を避けるため、2グループに分かれて見学してもらいましたが、どちらのグループの子どもたちも、ほんの僅かな食紅が、熱湯でかき混ぜられた小麦粉の色を変化させると、驚きの声をあげていました。豊作を祈ってきた先人の思いにも触れてくれたのでしょうか。

中地区児童館・・・「手作り凧」を揚げました

どんな凧がよく揚がるのか、できるだけ簡単に作れる凧はどれかなどなどを試作し、子どもたちに作ってもらいました。思い思いの絵も描いていざグラウンドへ。この日はやや風が強かったのですが、上手に揚がる子のところにコツを聞こうと歩み寄って行く子もいました。凧が揚がると絵が見えないと残念がっていた子もいましたが、自分で作った凧揚げに大満足し大切に持ち帰りました。



東地区児童館・・・初の試み、紙ひこうき大会

紙ひこうきを自分で折り、滞空時間の勝負をしました。同じ種類の紙飛行機用の紙を使い、小学校の広い体育館で、折り方や飛ばし方をあれやこれやと工夫し、友人の飛行機にアドバイスする姿も見られました。みんな練習の方が長く滞空し、本番では力の入り過ぎか、思うような結果にならず、悔しそうでした。同じような態勢に見えてもどこか違っていただけです。一度落ちかけた紙ひこうきが持ち堪え宙を舞っているところはちょっと不思議で乗ってみたいような気分になりました。